

# 見附米で蔵元と日本酒を世界に輸出する会

生産者・蔵元・サポーターが集まりゆるやかに連携し発足

## 生産者通信

(有)エコ・ライス新編

定価 100円(送料込)



生産者10名、酒蔵4名、関係者5名で「見附米で蔵元と日本酒を世界に輸出する会」の設立のため、顔合わせを行いました。  
見附市の生産者は、山田錦、白藤、春陽、たかね錦といった酒造好適米を栽培する生産者がおります。  
これから大量離農を迎える時代に、生産者と蔵元がタッグを組み、世界戦に挑戦するという夢を語り合いました。

### 提供酒一覧

- 原料米〈春陽〉  
青木酒造…鶴齢春陽  
天山酒造…七田  
東鶴酒蔵…Spin off  
田部竹下酒造…試験醸造
- 原料米〈白藤〉  
加賀の井酒造…白藤郷
- 原料米〈山田錦〉  
旭酒造…新瀨瀬祭 三割九分
- 原料米〈たかね錦〉  
加賀の井酒造…生原酒
- 原料米 五百万石  
加賀の井酒造…三条の風
- ☆文本酒造(高知県四万十町)  
・四万十  
・霧の里
- ☆HANAYAGI  
☆昇涙酒蔵(フランス)  
・風の風  
・おまち
- ☆ディアレットフィールド醸造所(埼玉県小鹿野町)  
・蜂蜜酒 桜百花  
・蜂蜜酒 ケンポナシ

会には、旭酒造の顧問でもある、サケオフィステラダの寺田社長も浜松から駆けつけて参加。  
また、伊勢志摩からは、文本酒造の岡山社長も参加。伊勢市で芸能関係の会社経営をしており、高知県の文本酒造の廃業をきっかけに事業を継承し、新しい形の酒蔵にリノベーションをしました。  
津南醸造の権沢会長はファーム8の社長でもあり、「ぼんしゅぐリア」 「SAKEPOST」等の開発を手掛けて大ヒット。他業界から参入し、既存の従来からの古い考え方から脱却し、日本酒の価値観を変えるほどのアイデアです。  
斬新な蔵元と生産者が連携をすることで新たな商品が誕生し、世界へ広がることになると期待しています。  
新たな品種、新たな米づくりに挑戦してみたいかがでしょうか。

### 播種前研修会 ご案内

- ◆日時：令和6年3月8日(金)10:00~
- ◆会場：長岡市中之島文化センター
- ◆参加費：無料
- ◆昼食：事前予約(1,000円程度)

※詳しくは、1月号裏面にて

参加申込

2/19

まで

1月号裏面  
申込書にて



# 「最高を超える山田錦プロジェクト2023」 授賞式に参加した2名の報告

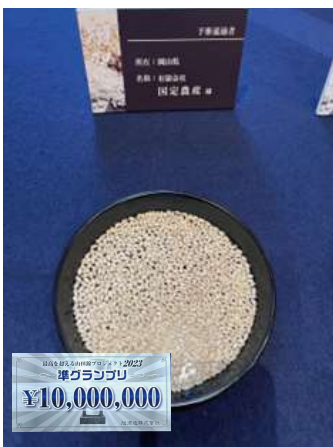
豊永社長からもお話がありますが、あのステージには新潟からの生産者が立ちたいと思いました。さて、今回のグランプリ受賞者の米で感じたこととして、会場には予選通過の6社のカルトンが並んでおりました。予選をクリアしたものだけあり、どれも綺麗な山田錦のように見えますが、改めて日本中からきたお米として見せて頂いた中では、新潟の山田錦でも勝るものがあるのではないかと思います。



山崎哲志(三条市)

初めて東京での授賞式に参加してみようと思ったのですが、本場に三〇〇〇万円や一〇〇〇万円が贈られていることを目の前にすると現実味を感じるものが出来ました。

まずは栽培する所から始まりですが、「エントリーする」「試してみないと始まらない」のがコンテストだと思いました。



栽培についても、準グランプリを受賞された国定農産の皆さんが同じテーブルにおられ、情報交換をさせて頂きました。やはりこだわりの栽培方法になつていてることを感じましたが、大切なのは8名ほどおられる従業者さんの目的意識やお米を見るこだわりなどを持って栽培していることが素晴らしいと感じました。

新潟県山田錦協議会には多くの会員の皆さんが揃っており、更には篤農家の皆さんが揃っており、まさに、切磋琢磨でいいお米、いいお酒に出来ると思いましたが、自らの栽培にも自信を持つて2024年の山田錦にもつなげて行きたいと思えます。

来年こそはこの場に呼ばれるように、また前に立てるように頑張りたいと思いました。そして今回は「日本の農業の課題」をテーマにパネルディスカッションとして漫画家の弘兼先生、参

準グランプリの国定農産さんとは同じテーブルに着くことができ、「いつ田植えをしたのか?」と聞いてみました。しかし、「6月中旬から7月まで田植えをしている」という農場全体の回答しか得られません。話しをすすめるうちに「コンテスト用の圃場」があり、専用に施肥設計からやっているとのことでした。

確かに心白が中心にあつて小さい米ばかりでした。私が思っている基準(等級検査)とは全くと言っていいほど違う基準でした。勿論グランプリ、準グランプリのお米は粒も大きく、見た目もキレイでしたが、他の3つは青米も目立ったりしていません。穀粒判別機をクリアすれば、新潟の誰がグランプリを取ってもいいと思えます。

岩淵高雄(見附市)  
「最高を超える山田錦プロジェクト2023」  
の場に参加させて頂きました。そこでは最終選考に残った5種類の山田錦が並んでいました。どれもキレイでしたが「うちの米も負けたくないの」というのが本音でした。



㊸G ランプリ ㊹H ランプリ



私たちが生産者はこれから価値あるものをつくり、元気で活発な業界となるために頑張らなければいけないと今回の事で感じました。『最終選考に残り、表彰台に立つ!』そこを目指して、もっといい山田錦作りをしていきたいと思えます。

他にも農協改革の話や農地集約の話も出ていて成功例として福井県農協は農地を全て借り上げて農地を割り振っているという話でした。

そして今は日本の農業が変わる最後のチャンスだとも仰っていました。世界に目を向けたコスパではなくパコス。即ちパフォーマンズに対するコスト(価値)に日本全体はシフトしていかなければならない。

冒頭、桜井会長は「農家の思考(農業に対する未来)が暗い」から始まり、「今の農業にはやる気と希望が大事、その一助になれば」と、このグランプリを始めた」と話していました。